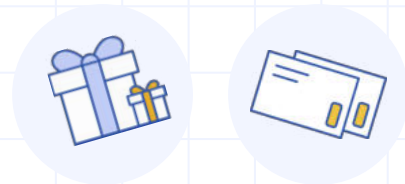


荷造運賃？ 通信費？

# 送料の勘定科目

# 使い分けリスト



※ 本資料は参考情報であり、法令等への適合性や内容の正確性・完全性について、一切保証するものではありません。  
制度の適用にあたっては、必ず公的資料等をご確認ください。

※ 本資料の情報は、2026年3月作成時点のものであり、変更される可能性があります。  
ご利用の際は、必ず最新情報を公的機関にてご確認ください。

# 送料の仕訳で使う主な勘定科目

日々の業務で発生する送料は、発送する目的や対象物によって勘定科目が異なります。

「送料＝荷造運賃」とは限らないため、状況に応じた適切な仕訳が必要です。

勘定科目	主な使用場面	具体例
荷造運賃	商品を発送するための運賃や梱包費用	取引先への商品発送
通信費	通信により発生する費用	切手代、レターパック代、はがきの送付
仕入高	商品の仕入れに伴う付随費用	仕入れた商品の引取運賃（取得価額に含める）
固定資産	固定資産の取得に伴う付随費用	PCや備品購入時の送料（取得価額に含める）
接待交際費	取引先への贈答に要した費用	お中元・お歳暮の送付にかかる送料
立替金	取引先が負担すべき費用の一時的な支払い	先方負担の送料を自社が一時的に支払った場合など

## シーン別 送料の仕訳パターン集

送料のみを処理する場合と、本体価格に含めて処理する場合の具体的な仕訳

### 1 商品を仕入れたとき

仕入れに要した費用は原則として「仕入（取得価額）」に含めません。

例 商品30万円を仕入れ、送料5,000円を現金で支払った場合

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	305,000	買掛金（等）	300,000
		現金	5,000

### 2 商品を販売・発送したとき

自社負担か、取引先負担を立て替えたかによって使い分けます。取引先負担の送料を立て替えた場合は、科目を「立替金」とするか、売掛金に含めて処理します。

例 商品50万円を販売し、自社負担の送料1万円を支払った場合

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	500,000	売上	500,000
荷造運賃	10,000	現金	10,000

### 3 固定資産や消耗品を購入したとき

資産の取得に要した費用（付随費用）は、本体の価格に含めるのがルールです。消耗品の場合は「消耗品費」に含めるのが一般的ですが、分けて管理したい場合は「荷造運賃」も使えます。

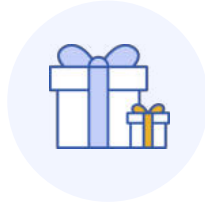
例 20万円のパソコンを購入し、送料5,000円を支払った場合

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品（等）	205,000	現金	205,000

# 実務で間違いやすい発送費用の扱い

## ✓ お歳暮・お中元

品代と送料を分けず、全額を「接待交際費」として処理します。



## ✓ 書類の送付

切手代やレターパック代は「通信費」で処理するのが一般的です。



## 送料計上における2つの重要ルール

### 1 状況に応じた科目の選択

送料が発生した原因（仕入れ、販売、贈答など）を確認し、適切な科目を選んでください。

### 2 継続性の原則

一度決めた処理方法は基本的に変更せず、每期継続して適用する必要があります。科目を頻繁に変えると、期間ごとの比較が正確に行えなくなるため注意しましょう。